

■ 専門家協力委員会設立に向けて

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

B 類常任理事 財務担当及び出版・広報補佐:湯澤

財務担当、出版・広報補佐の湯澤です。長年 AA で主に広報活動をしてきた私にとって「専門家協力委員会設立」は切なる願いでした。その願いが通じたのか、今回この原稿を書く機会をいただきました。ありがとうございます。AA ガイドラインによると、専門家協力委員会の目的は、

「職業を通してアルコールと接触する人たちに、AA についての情報を提供する。この職業人たちの中には、アルコール症の分野で仕事する人たちばかりではなく、医師、看護師、聖職者、法律家、ソーシャルワーカー、労働組合のリーダー、企業の管理者などが含まれる。これらの人たちに、われわれがどういう立場にいるのか、何ものであるか、何ができるのか、何ができないのか、などの情報を提供するのである。AA メンバーと職業人との間で、良好な協力関係が確立されるよう努力が払われる。」（『地域の専門家協力委員会を設置するために』2頁より）

この活動は、今苦しんでいる（医療施設・専門家とつながりを持つ）アルコールヘメッセージを運ぶための効果的な方法になり、AA がまだ存在しない場所でアルコールに出会うチャンスを持っています。これらの人たちに「われわれがどういう立場にいるのか」などの情報を伝えていくことが、この委員会の役割です。

そしてこれは、東日本圏ゼネラルサービスフォーラムで真栄里 A 類（ノンアルコール）常任理事が提案された「専門家に理解できるように伝えているか」「AA メンバー側から専門家とコミュニケーションを取ろうとしているか」と向き合っていくことに繋がります。

AA の歴史を紐解いてみると、専門家との協力関係は、この共同体の始まり当初から不可欠だったことが、『アルコール・匿名・マス 成年に達する』の「第四章 医学会から見たアルコール・匿名 W.W.バウアー博士／ハリ・Mティーボー博士」等に詳しく記されています。専門家の方々の手助けがなかったら AA は誕生しなかったか、成長の歩みはずっと遅くなっていたでしょう。

日本でもその始まりから専門家の手助けがあり、これまで様々な専門家協力の活動が行われていました。第3回評議会では広報委員会内に専門家協力委員会を設置することが勧告されました。当時は各地域の委員が行う情報交換のための費用確保が難しく、理事会委員会の維持も不安定で、委員会は自然消滅しました。しかし、その後も1998年専門家向けニューズレターの発行、2001年専門家のための国際シンポジウム開催、2002年A類常任理事ジョージ・ヴェイラント氏の招聘、2003年から「広報&病院施設フォーラム」開催など、専門家協力活動は行われていました。

また、初期の常任理事会では広報委員会と病院・施設委員会を含め5つの委員会が存在しましたが、この体制を維持することが難しく、3つに集約し、2つの委員会は現在の第2分科会に集約されました。結果として広報活動担当理事の負担が重くなり専門家協力の活動が弱くなったと指摘されました。その対策として理事会の

下に専門家協力委員会を作成しましたが、実際の活動は制限され、代案として専門家中心の専門家協力委員会構想がA類常任理事から出されました。2015年この主旨に沿った準備会が開催されましたが、元A類常任理事が中心となる活動は輪番制に沿わないものであるため廃案となりました。このように日本での専門家協力委員会は何度かの試みを経て、今回に至っています。

先ほど紹介したガイドラインでは、広報委員会と施設委員会の目的も明記されています。広報委員会は、

「AA のメッセージを、マスメディア（新聞、雑誌、ラジオ、テレビ）を通して一般社会に運ぶことであり、またアルコールを手助けする立場にいる人たち（妻、夫、医師など）を通してアルコールに伝えることである。」（同2頁より）

施設委員会は、「病院、アルコール治療／社会復帰センター、刑務所などにいるアルコールにもメッセージを運ぶ。この委員会の目的は、これらの施設にメッセージを運びたいと思っている AA メンバーやグループを調節することである。」（同2頁より）

専門家協力委員会は、広報委員会や施設委員会（日本では現在矯正施設委員会のみ）と連携しながら情報交換し、各委員会の任務が重なり合う部分でお互いが競合しないように関係を明確に打ち立て、それぞれの役割分担を決めていくことが大切です。これは今後、専門家協力委員会の活動を検討していく上で大切なポイントになると思います。

現在、これからどのような活動をしていくのかをワクワクしながら準備を進めています。①メッセージや広報での AA の伝え方を専門家の意見を聞いて見直し、AA 以外の皆さんが理解していただきやすく改善すること。②専門家と協力関係を作るためのガイドラインを作成すること。③全国各地域での専門家や専門家協力メンバーの連絡網を構築すること。④資料などの読み合わせや経験の分かち合いをする勉強会を定期的に行うこと。⑤これまで全国各地のメンバーが様々な専門家と協力して行なっている草の根活動の情報を集め、それらの分かち合いをする場を提供すること。⑥必要時集めた情報を提供できるシステムを構築すること。などなど、あれもこれも進めておくべきと思うことが脳裏をよぎります。

実はこれが大きな落とし穴になるのかもしれない。「ただの善は最善の敵」という言葉が思い浮かびました。今の日本の AA や専門家との協力関係の現状を踏まえ、何を第一にしていくのか、そして何を軸とし、どこを目標としていくのかをじっくり検討し、慎重に尚且速やかに活動する必要があります。

先日の話し合いの中で、最初の活動は医療関係の専門家関係分野に限定し、この分野の専門家との協力や良好なコミュニケーションを構築する方法を作成しようという流れになっています。その活動を全国に広めていき、その後は介護、専門職の学校などへと段階的に広げていくことを検討します。

そしてこの活動には、評議員をはじめ AA グループやメンバーの皆様の協力が不可欠です。また、日頃から AA の活動にご協力頂

いている AA 外部の様々な分野の皆さま、そしてこれから AA の友人になっていただける皆さまのお力が必要です。何卒よろしく願いいたします。

■ 第28回評議会を終えて (2023年2月5日、11、12日)

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

今後も評議員として真摯に、そして開かれた心を持って全力投球 第1分科会議長 尾関 (関西地域選出評議員)

私は2011年5月に神戸の精神病院を退院しました。入院中にターニングポイントとなる経験があり AA に幸運にもつながることができました。入院中にホームグループを決めスポンサーも同時にお願ひするという熱心さでした。飲まないことを続けられる盤石な状態で退院したかったのだと思います。退院後は仲間のすすめでミーティング会場を毎日歩くようになりました。AA に関わることはその後も第一優先で活動、SOBER となって数年後には週2日の派遣の仕事をしながらいミーティングも毎日行き、KCO 三大イベントの実行委員長やグループの代議員として地元のイベント実行委員会、広報活動、地区委員会、地域集いに積極的に参加している自分がいました。同時に仲間の影響が多分にありましたが、他地域の AA のミーティング、イベントやサービス機構、評議会や評議員の活動にも自然と関心が出てきて、他地域の OSM やフェロシップ、RU といったイベントへの参加のみならず、毎年千葉や多摩永山の評議会にオブザーバー参加するようになっていきました。

昨年2022年当時、地域委員会議長の役割を遂行しつつ、地域集いで関西地域の次年度の評議員に立候補、信任していただきました。評議会の準備ですが、昨年度の役割の引継ぎと仕事でなかなか時間がとりにくく、JSO から送られてきた分厚い資料をじっくり読めなかったです。それでも役割に対する責任感から評議会当日までは4~5回、目を通すことができました。オンラインの評議会勉強会もなんとか後半参加できました。

本年度の第28回評議会は2月5日(日)フルオンライン開催、2月11日(土)2月12日(日)は多摩永山で会場開催でした。評議会事務局の厳正なる抽選で第一分科会の所属となりました。分科会では第一分科会議長に立候補、信任していただきました。人生一度きりの評議員活動でせつかくなら経験できる役割はすべて経験してみたいという思いからの立候補でした。フルオンライン開催での評議会は積極的な発言ができましたが、対面開催では全国から参加されている評議員の方々や常任理事や評議会事務局の方々に前に緊張し、オンライン開催時ほどの発言ができなかったです。それでも発言しましたが、発言が終わって緊張のあまりマイクを逆さにマイク台にさしている自分がいたりもしました。しかし振り返ってみると、他の評議員の方が私の意見をかかわりに発言してくれた部分がかかりあったように思います。分かち合いをするなかで自分の意見が変わっていったということもありました。休憩時間の他地域の評議員や常任理事との分かち合いも素晴らしいものでした。

今後も評議員として真摯に、そして開かれた心を持って全力投球活動したいと思っています。第1分科会議長としての役割もひとつひとつ皆様と協力しながら遂行していく所存ですのでよろしく願いいたします。また、仕事を言い訳にしてホームグループ以外・オンラインミーティング以外の地元のミーティングに行くことがだんだん少なくなりましたが、今回の経験を機にもう一度見直そうという気持ちになる良いきっかけになりました。

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

評議会に行ってみる？

第2分科会議長 井本 (東関越地域選出評議員)

再飲酒で2度目の入院、病院近くの AA 会場で米国人の「AA はスピリチュアルです」の言葉が私の心に響きました。底をつき、メッセージが聞こえるようになり、退院後狭山グループに戻りました。グループ役割の経験も無く再飲酒した私に最初の提案が「評議会に行ってみる？」？？？AA で聞く耳は持っていませんでしたが「評議員、常任理事は一生に一回です」「米国で評議員になる時に聞かれることは、会社を辞める気になったのか？その事を奥さんに話したのか？」等サービスの話は妙に記憶しており、何だか分からないけど評議会に行く気持ちになりました。セクレタリーの役割を頂き、伝統ばかりのミーティング巡りとなり、初めて評議会にオブザーバー参加させて頂きました。感じたのが AA は評議会議題提案で動いている？と言う感覚でした。翌年伝統7ミーティングで「不満足な AA サービスに対して献金をしないメンバーの権利もある」と発言、会場に居た評議員から「評議会議題提案されたらどうですか」と提案され、グループビジネスにかけ、修正し、代議員経験も無い私が埼玉西地区委員会に出かけ、地区の良心を得て評議会議題提案させて頂きました。翌年勧告され、評議会報告会にて財政難の為、目処が立たないと聞き、実現に向けての怒りの評議会議題提案を提出しました。評議会分科会オブザーバー参加にて提出した議題の審議時「今、このサービスが必要ですかね」の発言に、私の熱い想いは急速に冷め「今じゃなくても」と納得した私が居ました。コロナ禍に埼玉西地区が広報先より AA 広報動画提出要請にて動画作成を手掛け、関東甲信越地域広報委員会にて、きっかけ~完成まで視聴を含め随時報告させて頂き、広報委員会、関東4地区から動画関連の評議会議題が提案され、常任理事会に動画作成委員会が設立。AA50 周年実行委員会、東関越ラウンドアップで広報動画が作成され、新たな AA 広報が始まったと感じています。「一生に一度は今だ」と評議員に立候補し信任されました。評議会第二分科会となり、副議長に立候補させて頂き承認されました。初日はオンライン、一日自宅の部屋で Zoom は辛い、家族に対しても辛い、もっと辛かったのは一週間一人議場閉鎖状態、霊性が保てるか不安で辛かった。永山会場の席はくじ引きなのですが、東関越の理事、評議員4人が固まり、完全なホーム状態で審議に望めました。夜は有志でアイスクリームフェローが有り、WSM評議員、A類・B類常任理事、事務局と共に食べるアイスは一生の思い出

なりました。早朝ミーティングの司会だった私、テーマをアイスクリームにさせて頂きました。最終日、審議が早く終わり最後にミーティングが開催され、そこでもアイスのお話が出てきたのは感動ものです。評議会を終えて第二分科会議長となり、事実上の満場一致を目指し、評議員として、今の私に出来る最善を尽させて頂きます。AAはスピリチュアルです。

-+--+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*

共同体全体の集会的良心

第3分科会議長 満本（東関越地域選出評議員）

第28回AA日本評議会は2月の第一・第二週末の2回に分けての開催となりました。第二週の評議会前日、関東では数年ぶりのまとまった積雪となり、交通の乱れ等を心配しましたが、当日は雲一つない快晴に恵まれ、会場施設から垣間見た真っ白な富士山が霊性を感じさせるほど美しく目に映りました。やはり共同体全体の良心が集まる場所は、ハイヤー・パワー（神）に守られている。私と同じように感じた仲間もいたのではないのでしょうか。

主なプログラムは第一週にオンラインでの分科会討議、第二週の全体審議で、29の議題について全国から集まった評議会メンバーとの間で熱く真剣な議論を交わし、各議題において本時点での最善の決定が導き出されたものと確信しています。

議決権を持つ評議会構成メンバーのみならず、ボランティアの皆様をはじめ、熱意と勇気をもって議題を提出して頂いた全国のグループ・メンバーなど、今回の評議会に関わって頂いた、全ての皆様に感謝を申し上げたいと思います。

私個人の感想を一言で述べるならば、あつという間の「楽しい」評議会でした。アルコールの泥沼に溺れてもがき苦しんだ挙句、医療保護入院でようやく酒が止まってから10年弱。AAに繋がったおかげで回復のプログラム、グループの一体性、ミーティング会場開けから始まったサービス、それら全てが自分を越えた大きな力（神）によって紡がれた奇跡の輪のように感じられます。

その奇跡への感謝は、12番目のステップや伝統5にあるように、いま苦しんでいるアルコールにAAのメッセージを運ぶこと（行動）で報いていきたい。同じような想いが全国のグループやメンバーから届けられ、同じ想いを持って各地域から選出された評議員の皆さんと議論を交わす。私にとって初めての評議会体験でもちろん大いに緊張はしましたが、それ以上に日本のAAのダイナミズムを直接肌で感じ、自分もその中にある楽しさは、味わってみるまで分かりませんでした。このニューズレターは何十年も先行く仲間からニューカマー、まだAAを知らない人々の目に届くものと思いますが、少しでもサービスに興味があって、まだ評議員を経験してい

ない仲間がいいたら、是非とも評議員に名乗りを挙げて下さい。逆三角形の底辺に位置する「しもべ」ですが、人の僕ではなく良心のしもべです。この心地よさを経験しないのは実に勿体無いと勝手に思っています。

-+--+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*

多くの学びや成長をもたらす貴重な経験となりました

評議会事務局長 笠原 (JSO)

1年間という長い期間をかけて、前任者からの引き継ぎを受けながら評議会の準備を担当いたしました。この経験から、いくつかの感想を述べさせていただきます。

評議会の準備には多くのことを考慮し、準備する必要がありました。特に今回は2週にわたる開催というこれまでにない日程となったため、スケジュールの調整から始まりました。またメンバーから寄せられた議題について、また会議内容についての検討、資料の準備、会場や設備の手配などさまざまな検討項目や課題があり、評議会の開催までにこれらをクリアし整える必要がありました。そのために評議会を担当する理事や評議員と打ち合わせを繰り返し、多くの情報収集や調査を行い、少しずつ準備を重ねてまいりました。

評議会にお力添えくださるボランティアスタッフとの連携も欠かすことができません。評議会の日程がこれまでと変わったこと、スタッフの人員が不足しているという問題にあっては、これまでの経験をふまえ柔軟に対応し解決策を提案していただきました。ボランティアスタッフのアドバイスや惜しみない献身なくして評議会の円滑な進行は成り立たないと感じました。

評議会を担当することで、多くの学びがありました。これまでの業務とは異なり、多くの方とのコミュニケーションを図る必要がありました。皆さまとの意見交換や提案を通じて、自分一人では考えつかないアイデアや視点で問題点に向き合い、解決に向けて取り組むことができました。

この経験を通じ、チームワークの重要性、それを持って物事を進めることの重要性を再認識しました。これまででも意識していることではありましたが、評議会の開催や運営には関係するすべての方との協力や協調が欠かせず、そのために自分自身がさらに成長する必要性をあらためて認識しました。

以上のように、1年間の準備期間をかけ開催された評議会は、多くの学びや成長をもたらす貴重な経験となりました。この経験を生かし、また改善点を踏まえ、今後の評議会がAA全体にとってよりよいものとなるよう皆さまのお手伝いをしていきたいと思っております。

編集：ニューズレター編集委員会・発行：NPO法人AA日本ゼネラルサービス

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> jso-1@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金)10:00～18:00 (土・日・祝) 休